

# 第7回 京都現代経済学ゼミナール募集要項

申し込みの手続きは、簡単です。

「申込書」に必要事項を記入し、受講料をそえて申し込んでください。

募集の定員は、60名です。(定員になり次第〳〵切ります)

講義時間は、午後1時～5時(休憩も含まます)

受講料は、13,500円です。(税込み)

『京都学習会館』(上京区堀川丸太町西一筋目上ル)です。

電話(075)841-8141 FAX(075)821-3665

自転車・バイク・自動車の駐車場はありません。二条城市営駐車場へお願いします。(自転車は会館の周りは住宅街ですので止めることは出来ません)

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



Coordinator 芦田 文夫・立命館大学名誉教授

# Kyoto Contemporary Economics Seminar Vol.7

世界の構造変化をとらえる 第2弾!!

## 世界史時代を切り開く“地域共同体”



申込先は.....  
 京都労働者学習協議会  
 〒602-8147  
 京都市上京区堀川丸太町西一筋目上ル  
 『京都学習会館』内  
 電話(075)841-8141  
 FAX(075)821-3665

第7回京都現代経済学ゼミナール 申込み日時				年	月	日
フリガナ				性別	年齢	
氏名:				男・女	才	
現住所:						
職場・学園:						
労働組合名:				(全国単産名:	)	
電話: 職場 ( )				自宅 ( )		

京都学習協第7回京都現代経済学ゼミナール

『世界史時代を切り開く “地域共同体” 』

芦田文夫先生から受講のよびかけ

# 世界史的な流れの大きな変化は 既成の常識をはるかに超えるもの 私達にあらためて学習と深い理解を迫まる

いま、世界が地殻変動を起しつつある、と言われていています。こんどの世界金融危機で、アメリカの「一国覇権主義」は経済的にも破綻に瀕しつつあることが、誰の目にも明らかになりました。アフガニスタンやイラクでの戦争がいきづまり、アメリカ中心の軍事同盟が機能不全や解体状況におちいついています。かわって、自主的な平和の共同体がグローバルな規模で広がりつつあります（東南アジア諸国連合ASEANが中心になって東南アジア友好協力条約TAC、上海協力機構SCO、南米諸国共同体CSN、アフリカ連合AU...）。そこでは、国連憲章にもとづく平和秩序、公正で民主的な経済秩序、一国覇権主義を許さない、という共通の原則が広く合意されつつあります。好評だった昨年現代経済学ゼミナール「世界の構造変化をとらえる」にひきつづき、この7月からこんどは「世界に広がる地域共同体」に焦点をあてて、その第2弾の連続ゼミナールを組んでみました。

「資本主義が高度に発達した国々」では、先頭にたって牽引していたアメリカで「ブッシュの8年」（「国境を超えたマネーの暴走」「軍事力の暴走」「地球温暖化の暴走」）が終わり、「オバマへのチェンジ」が劇的にもたらされました。投機的な「金融化」「証券化」を断罪するなかで、EU（ヨーロッパ共同体）では利潤第一主義を野放しにさせない、それに歯止めをかける社会的な規制やルールを重視する流れが強まっています（「社会的市場経済」「社会的責任企業」）。

「社会主義をめざす国々」とくに中国は、アジアと日本のこれからにとってますます重要さの比重を高めています。2006年12月から新たな「調和的発展の局面」（格差と環境の改善、労働・生活・権利の重視）をうちだすようになっていましたが、世界金融危機にさいして14兆円もの大規模な農村などへの「内需拡大」投資を行おうとしています。「ASEAN+3（中・日・韓）」の動きは、10年前アジア経済危機のさいアメリカ主導のIMF（国際通貨基金）に対する反発から強くなっていたものですが、こんどの危機をきっかけに「東アジア共同体」構想は新たな段階をむかえることでしょう。

このような動きと重なって、「旧体制が崩壊した国々」なかでも日本にとって「近くて遠い国」ロシアの極東・アジアへの近年のシフトも注目されていました。「上海協力機構」には、ロシア・中国・中央アジア6カ国、それにインド（オブザーバー）などが加盟しています。ロシアは新興経済諸国BRICS（ブラジル・ロシア・インド・中国）の結

束を足場にして、アメリカ中心の世界経済秩序を「公正かつ民主的な」ものに転換させようとしています。

「その他のアジア・アフリカ・ラテンアメリカの国々」で今もっとも劇的な変化をみせているのが中南米の諸国です。「新自由主義」がもたらした格差と貧困の悲惨な結末、資本主義の道に失望し、自主独立、非同盟、世界平和という流れが急速に強まっています。反米の左派政権がつぎつぎと誕生し、南アメリカ人口の4分の3以上を占めるようになり、これらが社会変革の流れと合流して、独自の「社会主義」への展望をうちだすところもでてきました。各国の連帯と共同が進み、「南米は一つに」（ボリバル主義）の合言葉で、地域統合と共同体創設に向けた力強い歩みがみられます。

このような世界史的な流れの大きな変化は、既成の常識をはるかに超えるもので、私達にあらためて学習と深い理解を迫まるものとなっています。前回と同様、第一線で実地の調査や研究に従事されている専門家を招き、それぞれ月一回の半日をかけ、現状・歴史・理論的課題をじっくり学習と討議によって深めてみようではありませんか。アメリカだけしか視野に入らない「外需依存型」経済から日本が抜けだし、一時しのぎの「定額給付金」ではなく、ほんとの「内需拡大」の構造変革にむかって踏みだしていくためにも。

第7回 京都現代経済学ゼミナール		
第1講義 7月5日 日曜日	東アジア共同体構想の あらたな段階	西口 清勝 立命館大学教授
第2講義 8月2日 日曜日	ユーラシアですすむ新たな胎動 上海協力機構	溝端 佐登史 京都大学教授
第3講義 9月6日 日曜日	中南米ですすむ共同体構想と 「21世紀社会主義」への模索	田中 祐二 立命館大学教授
第4講義 10月4日 日曜日	「企業の社会的責任」(CSR)とEU 新たな社会経済モデルの提示 !!	林 昭 龍谷大学名誉教授
第5講義 11月1日 日曜日	世界にひろがる地域共同体の 世界史的進歩性を考える	芦田 文夫 立命館大学名誉教授